

知事との県民対話集会（安曇野市）概要

- ・開催日時 令和5年9月9日（土） 午前10時30分から正午まで
- ・会場 安曇野市役所 4階大会議室
- ・参加者 県民48名、太田安曇野市長、阿部知事、宮島松本地域振興局長 他
- ・テーマ 移住者に選ばれ続ける信州安曇野

・主な発言（要旨）

【参加者】

- ・安曇野への移住希望者は、物件探しに難航するケースが多く、不動産屋や市役所へ相談に行っても、いい物件には出会うことは難しい。せっかく安曇野に来るならと、古民家などでの暮らしを希望する人が多いが、直す費用が高額だったり、新建材で中途半端に修繕したものだったりする。安曇野に暮らしたい人たちのニーズに応えられる住まいの提供をしていきたい。
- ・最近では、分譲地で1軒の住宅を壊して4軒くらいの狭い家を建てるようなケースが多く、需要に合っており移住者が増えるかもしれないが、将来の街並みとして大丈夫なのか心配している。

【参加者】

- ・空き家は多いが、活かしきれていない。また、持ち主が貸してくれないなどといった状況があるので、まずは、シェア事業で活用してもらおう取組を行っている。

【知事】

- ・移住定住を進める上で、住まいの話は大きな問題。長野県への移住希望者は増えているが、住む場所がなく他の場所へ行った人が相当数いると思う。空き家の活用を含め、住宅の話は深く突っ込んでいかないといけない課題と考えている。
- ・安曇野市も景観の規制はあると思うが、どういう形の街並み景観を残していくかは地域での議論が必要であると思う。長野県ではUDC信州という組織で、各地域のまちづくりを応援する仕組みをつくっているのだから、そういったところを活用してほしい。
- ・住宅について、脱炭素社会に向け断熱性能をどう上げていけばよいか。ゼロカーボン戦略で高い目標を掲げており、新築住宅は対応できるが、既存住宅、古民家の活用も重要である。断熱性能等について何かお考えがあれば教えていただきたい。

【参加者】

- ・シングルサッシに断熱材を導入するだけで十分に快適である。費用を要するものの十分な効果があり、現在の省エネ基準や今後適用される省エネ法の基準は個人的には行き過ぎだと感じる。新築住宅は一年中エアコンを使う前提で窓を小さく、少なくしている。昔の住宅は屋根が大きく軒が深く、窓も大きいため、夏は風通しがよく、冬は太陽の暖かさを感じられ、そうしたよさがなくなってしまうのどうかと思う。

【知事】

- ・地域特性に合った住宅のあり方をもう一度考えた方がよいというお話の内容はしっかり受け止めた。

【知事】

- ・行政として空き家バンクだけでは不十分なことから、空き家利活用推進アドバイザーを委嘱し、より踏み込んだ取組をしていこうと思っている。空き家政策については個別に対応していかないといけないが、県レベルでこうした方がよいということがあれば教えていただきたい。また、市町村が自ら住宅を整備しているところもあると思うが、もう少しビジネスと連携できないかを考えている。

【参加者】

- ・以前、他の地域の取組を参考にしたが、人が集まらなかった。地域の特性を活かし、地域を売り込むことをしていかなければならないと感じた。
- ・地域の価値を上げることで空き家をなくしていく、空き家を利活用することで地域の価値を上げるという相乗効果で地域全体を売り込んでいく取組をしている。空き家の利活用単体では利益が出ないが、周辺を含めイベントなどを行い、持続的に活動できるビジネスモデルにしていきたいと考えている。

【参加者】

・信州暮らしパートナーとして、移住相談等を行っている。移住希望者は、年代、目的、移住に対する課題や思いの深さもさまざまであるため、自分の経験も活かしながら、相手に寄り添った心の込もった相談を心掛けている。

【知事】

・県としても様々な移住相談窓口を設置しているが、移住希望者にとって一番の参考となるのは、移住された先輩にどのような苦労があったのか、どう改善されたのかという実体験の話であると思う。多くの移住希望者にそうした経験が伝えられるように、移住相談体制を強化していきたい。

【参加者】

・人口減少対策、地域の活性化のため、地区において移住推進の活動を行っている。行政と連携した仕組みづくり、地域のファンづくり、移住希望者向けの地元体験交流会の開催、移住者と地元住民のつながりづくりに取り組んでいる。

・他の地域で、移住に取り組んでいる好事例があれば教えていただきたい。また、移住希望者の子どものために、お試し入園、お試し入学を検討していただきたい。

【知事】

・地域ぐるみで移住推進に取り組まれている好事例であると思うので、お話しいただいた取組を他の地域に伝わるようにしていきたい。

・お試し入園・入学については、学校によっては既に取り組んでいるところもあるので、市でも検討していただいてもよいかと思う。

【飯田企画振興課長】

・他地域での事例としては、南信州の阿南町和合地区では、移住された方が地域のお祭りや行事に参加し、その体験を自分たちが外部に発信することで、興味を持った方が次の移住につながるよい流れができています。

【参加者】

・安曇野市への移住定住の切り札にするべく、自然保育のブランディングに取り組んでいる。公立認定こども園の園庭に田んぼをつくり、米づくりの体験を通して、農業への興味や関心をシビックプライドの醸成につなげ、安曇野の田園風景を守り、子どもたちの心にふるさとの土台をつくる目的で行っている。

【知事】

・県として信州やまほいくに一生懸命取り組んでいる。長野県の自然環境を最大限に活用して、子どもたちが長野県の農業や林業、自然と親しみながら育っていくことができるよう、引き続き取り組んでいきたい。園庭田んぼについては、信州やまほいくの新たな取組として積極的にアピールしていければと思う。

【参加者】

・5年前に安曇野市に移住した際、仕事があるか心配していたが、幸いにも、それまでやっていた教員として就職できた。暮らしていると実感しづらいと思うが、子どもたちには安曇野のよさの発信力をつけてほしいと感じている。

【知事】

・長野県では、移住される方を仕事とセットで呼び込む取組として、こうした仕事があるから来てほしいという呼びかけも始めている。

・長く生活していると景色や環境のよさに慣れてしまう。移住してきた方などと交流することで住んでいる方の感覚が研ぎ澄まされることもあると思う。信州やまほいくなど長野県でなければ体験できないことを通じて子どもたちに長野県のよさを伝えていきたい。

【参加者】

・移住者に選ばれるためには、街灯、道路、下水道などのインフラの整備も重要な要素だと感じる。

【知事】

・インフラについては、人を受け入れる環境として望ましい形にしていきたいと考えている。また、人口減少局面において、既存のインフラをどう活用していくのかも重要であり、力を入れ始めている。そうした部分も含め、ご意見を伺いながら対応していきたい。

【参加者】

・水田が多い安曇野だが、今後、耕作できずに維持できないのではと懸念している。農業で稼げる仕組みづくりを進めていかなければいけないと思う。地元の高校に（農業に関連する）プログラムを盛り込むなどして、都会に出なくてもこの地で食べていけるように、行政から若い人たちにアピールしてほしい。

【知事】

・移住も大切だが、長野県で生まれ育った人たちが定住できるようにすることは重要なテーマだと思っている。
・農業の魅力向上のため、農業のスマート化、大規模化、輸出強化、品質向上等をセットで行う必要がある。
・農業の担い手確保のために、子どもたちの教育、農業を働く場として選んでもらえる人を増やしていくための努力をしっかりと行っていきたい。

【参加者】

・教員をしており、2人の子どもの子育て中である。長野県は子育てがしやすい環境だと感じている一方で、幼稚園や保育園への入りづらさがあったり、部活動の地域移行が進まないことがあるなど、家庭と仕事の両立が難しい面があると感じている。

【知事】

・教育の問題については、行政だけでは改善できず、地域や先生方と議論していくことが重要であると思う。先生と子どもの双方にとってよい教育の形を教育県である長野県から発信していきたい。
・仕事と家庭との二者択一を迫られる働き方の実態を改善していかなければいけないと思う。県の少子化・人口減少対策戦略検討会議でも検討を始めている。女性にも男性にも働きやすい、よりよい県づくりを、市町村長とも問題意識を共有しながら進めていきたいと考えている。